

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2026年8月)

■ 8月のパフォーマンス

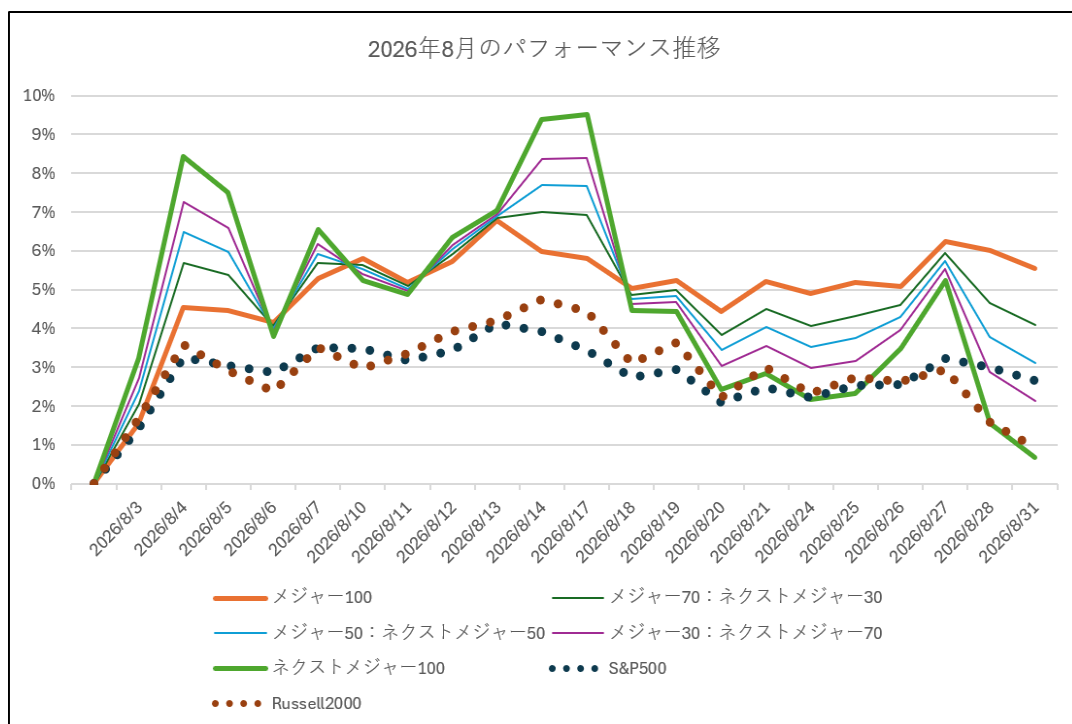
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+5.54%
ネクストメジャ△100	+0.67%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+2.62%
Russell2000	+0.86%
NY ダウ	+1.34%
NASDAQ	+3.93%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	5.54%	S&P500	2.62%	2.91%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	4.08%	S&P500 (70%) Russell2000 (30%)	2.09%	1.98%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	3.10%	S&P500 (50%) Russell2000 (50%)	1.74%	1.37%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	2.13%	S&P500 (30%) Russell2000 (70%)	1.39%	0.75%
5位	ネクストメジャー100	0.67%	Russell2000	0.86%	-0.18%
	全戦略平均	3.10%			1.37%

※各指標のベンチマークについて

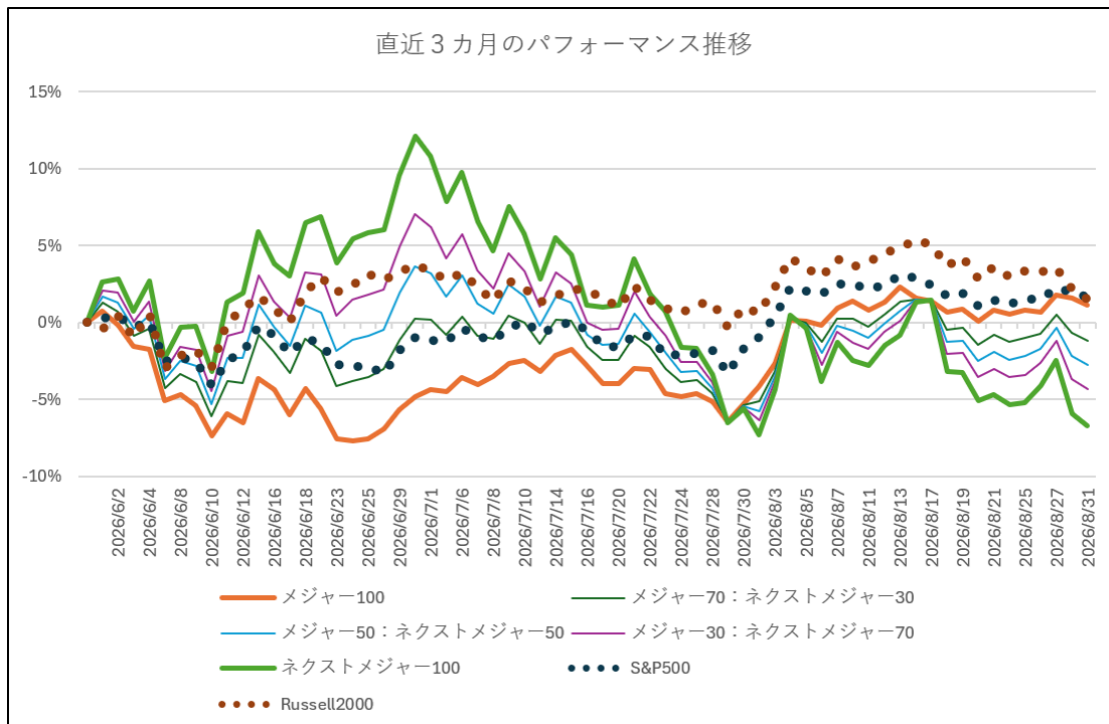
メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussell2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

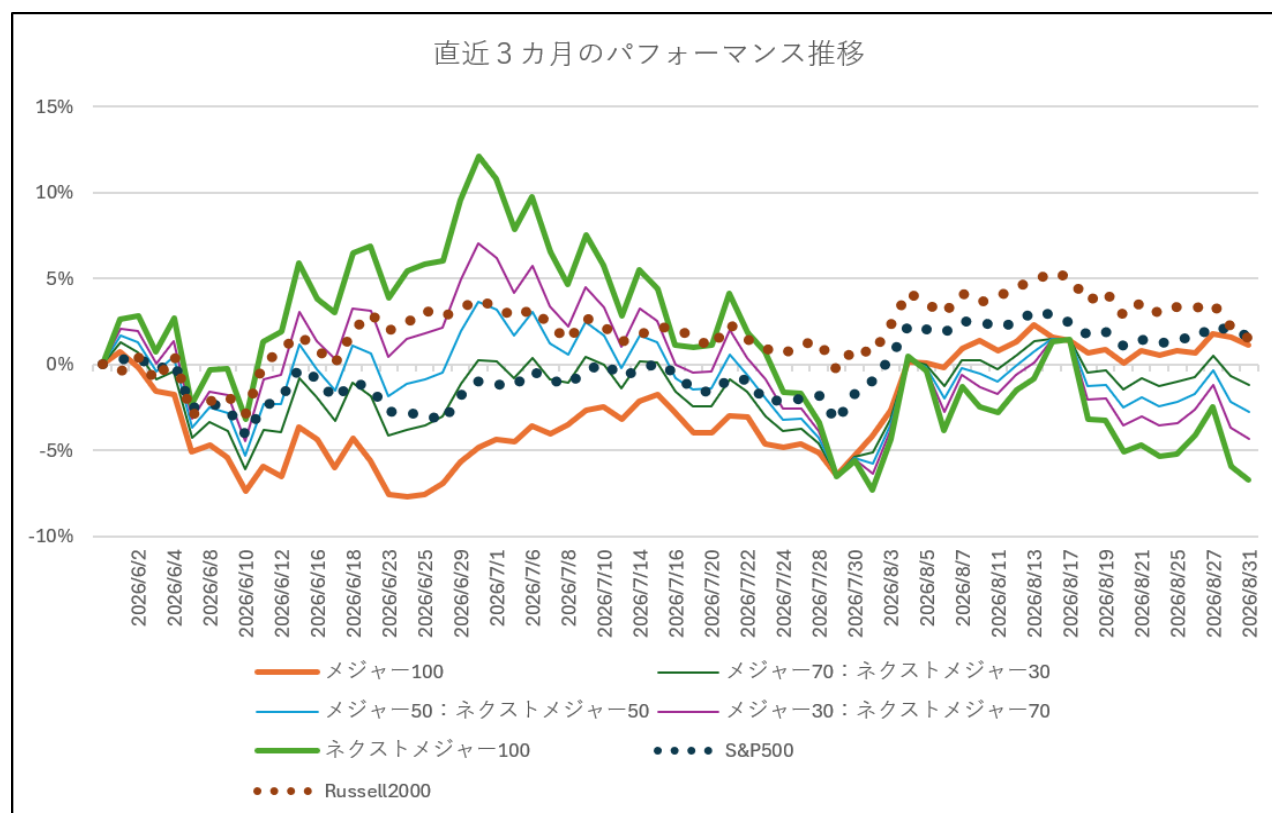
WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+5.54%、対ベンチマーク超過収益では+2.91%となり、ベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年8月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

WEALTH GROWTH（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2026年8月末までの運用実績です。

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	5.54%	1.13%	16.12%	25.27%	35.04%	1.23	2.48
ネクストメジャー100	0.67%	-6.72%	8.36%	-7.15%	-6.72%	0.37	0.76
S&P500	2.62%	1.65%	12.01%	19.27%	27.31%	1.44	2.95
Russell2000	0.86%	1.54%	12.82%	25.40%	31.65%	0.96	1.83

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

■ 8月の市況概況

➤ 米国市場

8月の米国市場は、地政学的リスクに伴う原油ボラティリティとFRBのタカ派スタンスに翻弄されました。ハイパースケーラーのAI投資に伴う社債増発が需給を圧迫する一方、利上げ懸念が金利を押し上げ、株式市場はボラティリティの高い展開となりました。

・第1週（8月3日～8月7日）／ダウ平均：+2.96% S&P 500：+3.58% NASDAQ：+5.19%

地政学リスク後退と景気底堅さによるリスクオン

イランへの強硬姿勢軟化による原油下落で長期金利が低下しました。7月ISM製造業景気指数が55.6と約4年ぶりの高水準を記録し景気懸念が後退したことで、主要指数が最高値を更新しました。一方、NY連銀総裁は追加利上げの可能性を排除せず、引き締め長期化リスクが燦りました。

・第2週（8月10日～8月14日）／ダウ平均：△0.56% S&P 500：+0.36% NASDAQ：+0.14%

インフレ期待の安定と実質消費の陰り

7月のCPI（消費者物価指数）が総合前年比3.4%と予想に一致し金利高警戒が緩和されました。しかし、7月の小売売上高が前月比0.6%減とマイナスに転じ、ミシガン大消費者信頼感も悪化、所得減が実質消費を圧迫する懸念が台頭しました。また、AI投資の資金調達を目的としたテック社債供給により超長期金利は5.26%へ急上昇しました。

・第3週（8月17日～8月21日）／ダウ平均：△0.85% S&P 500：△1.43% NASDAQ：△2.05%

長期金利上昇によるバリュエーション調整圧力

オマーン爆撃警告などの地政学リスクで原油高が継続しました。7月のFOMC議事要旨でのタカ派姿勢やウォラー理事の利上げ示唆を受け、米30年債利回りは5.3%台へ上昇。ウォルマートの既存店売上減速が消費の脆さを意識させ、金利上昇が株式バリュエーションの重石となりました。

・第4週（8月24日～8月28日）／ダウ平均：+0.53%、S&P 500：+0.49%、NASDAQ：+0.85%

NVIDIA好決算とジャクソンホール後のタカ派警戒

NVIDIAの好決算（売上2.1倍）やハギング・フェイス買収が好材料視される一方、メモリ高騰や同社の循環投資疑惑が警戒されました。7月のPCE（個人消費支出）物価指数が3.7%上昇と予想を上振れ、ジャクソンホールでウォーシュ議長が利上げを強く示唆したことで長期金利が再上昇、株価の重石となりました。

・第5週（8月31日）／ダウ平均：△0.70%、S&P 500：△0.33%、NASDAQ：△0.12%

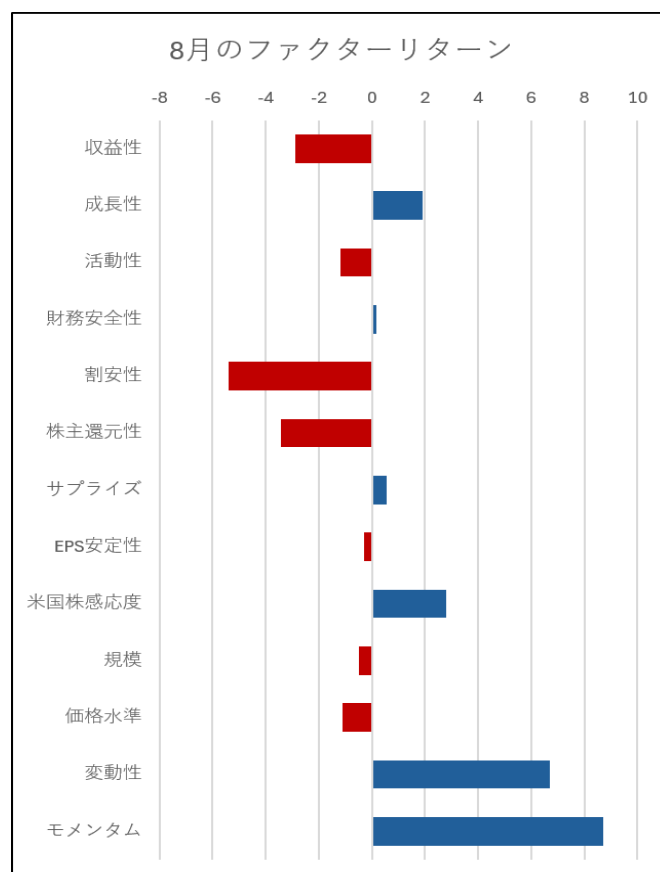
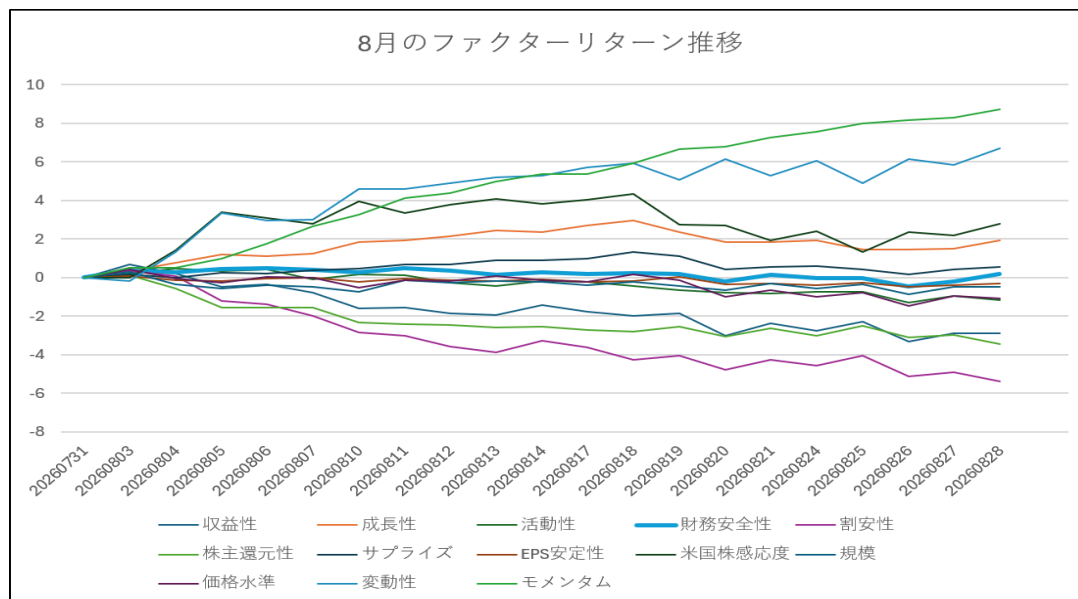
イランへの攻撃再開で原油が急騰、10年債利回りは4.76%と1年半ぶりの高水準に達しました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

8月は、上昇に勢いがあるハイリスクの好業績低位グロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、モメンタムファクター・変動性ファクター・米国株感応度ファクター・成長性ファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクター・株価水準ファクターが大きくマイナスとなり、AI・半導体関連株の調整が進み、さらに、一時的に地政学リスクが緩和したことにより、ディフェンシブ色の強い銘柄へ移行した7月とは真逆となる、上昇に勢いがあるハイリスクの好業績低位グロース株へ資金が向かったことが見て取れます。

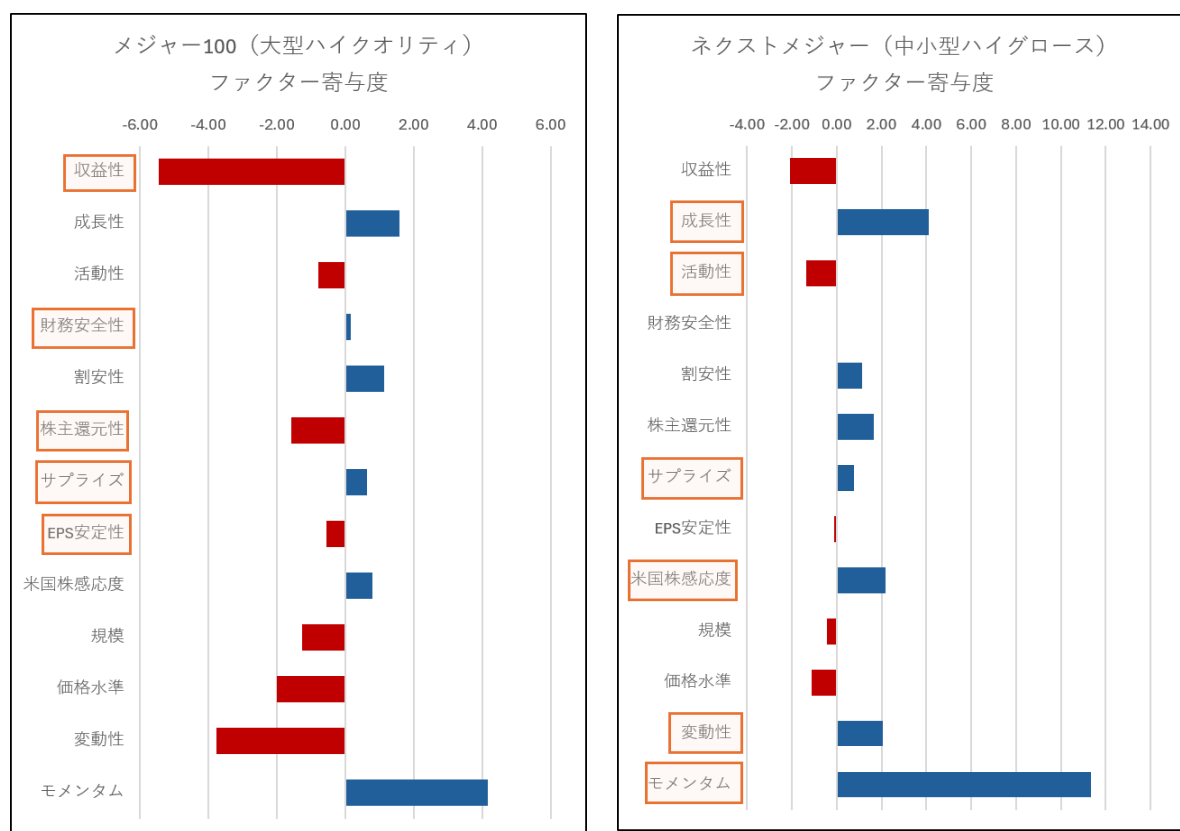


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「好業績・財務健全」といったポートフォリオ特性が大きくプラスに寄与、さらに、「市場平均よりもオーバーウエートとなっている米国株感応度（＝ハイベータ）特性」もプラスに寄与したためです。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussell2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100の特徴である「高成長・好業績・高米国株感応度（＝ハイリスク）」特性がプラスに寄与するも、「市場平均よりもオーバーウエートとなっている株価水準（＝値高株）特性」がマイナスに寄与したためです。



8月は一時的に地政学リスクが緩和したことからリスクオンとなり、ディフェンシブな動きが見られた7月とは真逆の市況環境となりました。

地政学リスクの高まりやAIによる破壊的な産業革命が起きており、極めてハイリスクな相場環境が継続しておりますが、引き続き丁寧なリスク管理を行いながら、成長株をご提供してまいります。

➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	PLTR	パランティア・テクノロジーズ	4.0%	1.670%	
	ビッグデータ解析およびAIプラットフォーム（Gotham, Foundry, AIP）の開発・提供。2026年8月発表の第2四半期決算では、売上高が前年同期比92.8%増の19.35億ドルと市場予想を大きく上回りました。特に米国民間（コマーシャル）部門の売上が前年同期比149%増、米政府部門が90%増と急拡大を記録。8月単月で株価が約40%急騰し、52週高値圏（180ドル超）で推移しています。実効性の高いAIプラットフォーム（AIP）の顧客拡大（Net Dollar Retention 157%）が高く評価されています。				
2	NEM	ニューモント	4.2%	1.263%	
	世界最大級の金採掘会社。銅、銀、鉛、亜鉛などの鉱物資源の開発・生産も展開。金価格の歴史的な高水準を背景に、強力なフリーキャッシュフローを維持。非中核資産の売却による事業のスリム化と負債削減（デレバレッジ）を進めつつ、自社株買いや堅調な配当実施により高い株主還元率を維持しています。金価格の上昇局面における直接的な恩恵と、業界トップクラスの強固な財務基盤が好感されています。				
3	NVDA	エヌビディア	10.3%	1.011%	
	GPUおよびAIインフラ・プラットフォームの世界的リーダー。2026年8月下旬発表の第2四半期決算では、売上高が前年同期比約106%増の962億ドル、調整後EPSも市場予想を大きく超える好決算を記録。次世代「Blackwell」の出荷加速や次世代「Rubin」ロードマップの進展により、第3四半期の売上高ガイダンスも1,080億ドル規模へ上方修正されました。ハイパースケーラーからの需要継続と圧倒的な競合優位性が高評価を得ています。				
4	MPC	マラソン・ペトロリアム	4.3%	0.736%	
	米国最大級の独立系石油精製・販売会社およびミッドストリーム事業。2026年8月発表の第2四半期決算では、高水準の製油所稼働率を維持し、売上高が前年同期比53.8%増の519.9億ドルと市場予想を大幅に超過。年間100億ドル規模の自社株買いや継続的な増配など、エネルギーセクター内で卓越した資本効率を示しています。強固な精製能力と積極的な株主還元姿勢が評価されています。				
5	DELL	デル・テクノロジーズ	4.0%	0.482%	
	PC、AIサーバー、データストレージ、ITインフラソリューションの開発・販売。2026年9月1日発表（米国時間）の第2四半期決算では、売上高が前年同期比57.7%増の469.7億ドル、調整後EPSがと市場予想を大幅突破。特にAI最適化サーバー売上が倍増し、通期売上高見通しを大幅に引き上げました。エンタープライズ AI需要の本格化に伴う成長性が高評価されています。				

ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	RBRK	ループック	7.6%	1.917%
	クラウドデータ管理およびサイバーレジリエンス（ランサムウェア対策・データ保護）SaaSの提供。サイバー攻撃からバックアップデータを守る「ゼロトラスト・データ・セキュリティ」需要の急拡大により、ARR（年間経常収益）が飛躍的に拡大中。データセキュリティ分野での評価が高まっています。売上成長率の強さが絶賛されており、未黒字段階であるものの高い評価を維持しています。			
2	CVNA	カーバナ	7.5%	1.236%
	オンライン中古車販売プラットフォーム。2026年 7月末発表の第2四半期決算では、売上高が前年同期比52.4%増の73.8億ドルへと急成長。販売台数が19.7万台（+37.7%）と大幅増となり、効率的な物流網と自社審査による収益化モデルが確立されています。業界全体の低迷をよそに圧倒的なシェア拡大と収益性の改善を達成しており高評価を得ています。			
3	W	ウェイフェア	6.8%	1.066%
	家具・インテリア・家庭用品に特化したEコマースプラットフォーム。2026年8月発表の第2四半期決算では、売上高が前年同期比7.5%増の35.2億ドル、調整後EPSが市場予想を上回りました。大型実店舗の本格導入や高級ブランド分野の伸び、物流網最適化により、約3億ドルのフリーキャッシュフローを創出しました。家具ECでのシェア拡大と利益体質への転換が高く評価されています。			
4	ALNY	アルナイラム・ファーマシューティカルズ	5.4%	0.850%
	RNA干渉（RNAi）技術を用いたバイオ医薬品の開発・商業化におけるグローバルリーダー。2026年8月末の欧州心臓病学会（ESC 2026）で主力薬AMVUTTRA」等の最新臨床データを公表し、ATTRトランスサイレチン型アミロイドーシス領域での優位性を再確認。米退役軍人省（VA）との大型契約（最大3.87億ドル）の獲得もあり、8月下旬から9月初頭にかけて株価が約23%急反発しました。			
5	XMTR	ゾメトリー	3.3%	0.262%
	AIを活用したオンデマンドカスタム製造・加工プラットフォーム。2026年8月発表の第2四半期決算では、売上高が前年同期比41.1%増の2.29億ドル、調整後EPS市場予想を突破し、過去最高の売上高および調整後EBITDAを記録。マーケットプレイス事業の拡大が著しく加速しています。製造業 DXの勝者として高い期待を集めています。			

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

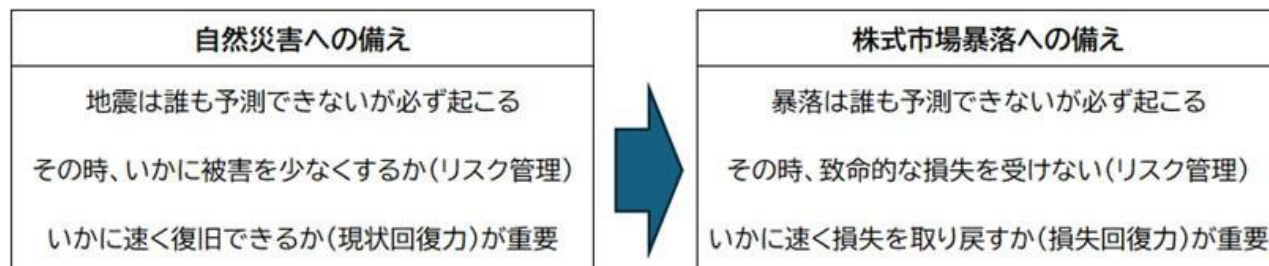
特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25 銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10% 程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルスグロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

① 銘柄数を、20～25 銘柄としています

② 個別銘柄の組入比率は、原則として1銘柄当たり10%を上限の目安として運用しています。(ただし、株価変動等に伴い、組入比率が一時的に10%を超過する場合があります。その場合には、売買コストや市場動向、ポートフォリオ全体の状況等を勘案し、適宜リバランスを行います。1銘柄、10%以上保有しないようにしています) ③ 特定業種に偏重しないようにしています

④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています

⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年9月4日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供される投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Jトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会